



吉原美智恵議員

保育所のあり方は

教育委員長

早急に試案を示す

問 保育所の現状は、入所児童数のバラつきや、低年齢児の増加により、収容能力を超えた入所希望があるなど、多くの課題を抱えている。

特に所子保育所は、保育室不足と、老朽化による危険性もあり、深刻な

状況である。

上中山保育所では、園児数の減少により、年齢年中合わせて7人の異年齢保育が行われている。

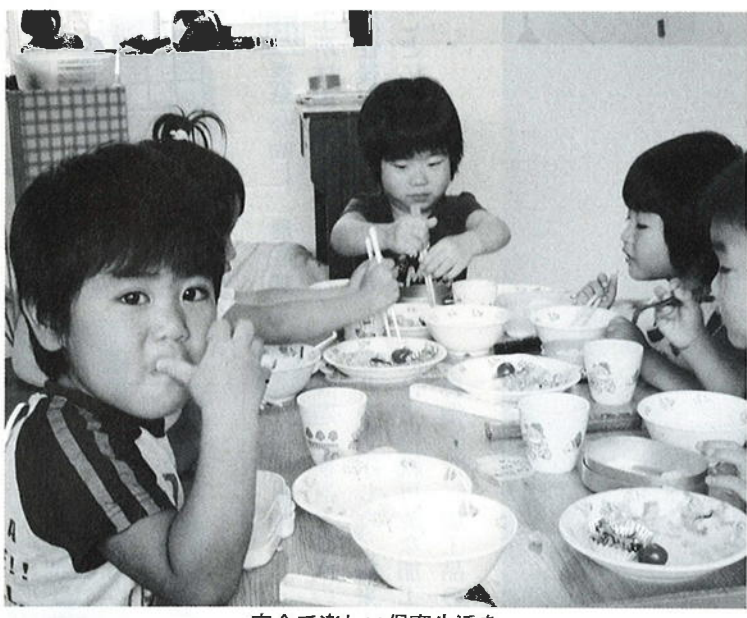
また、10園とも老朽化が目立っている。子育て支援に力を入れている本町において、保育所の現

状と課題は、4年間変わらぬままである。今年度中に試案は出るのか。

答 (伊澤教育委員長) 教育審議会では、園児の育ちを第一に考え、適正規模になるような統合が必要であるという答申が出ている。

その答申を受け、「保育所のあり方を考える会」を3地区で開催してきた。安心して子どもを産み育てることのできるまち、その保育環境を目指して7月の定例委員会までには、試案を示したい。

町民や保護者とも、十分な話し合いをしていきながら、早期に新しい体制について示す考えである。



安全で楽しい保育生活を

安全、安心で活気ある町の取組みは

町長 連携を図り進めていく

問 ①地域防災計画の中に避難所が61か所指定されている。その中には投票所となっている施設もある。安全面や耐震問題等は検討されているか。

投票所のバリアフリーの配慮は。②道の駅がオープンして2か月がたった。新しく珍しいこの時期に多くの来場者を迎えているが、当初の目的である町内の案内はできているのか。そして、従業員のスキルアップはどうか。また、町内に長く滞在してもらうため、例えば、観光タクシーや人力車等

の配置を考えてはどうか。

答 (森田町長)

①町指定のおよそ1/4が新基準に達していない古い施設である。優先的に耐震化すべき施設を見極めながら、人命と財政面のバランスを図りつつ、検討していく。投票所についても、早急にバリアフリー対策を指示する。

②道の駅は、おおむね好評をいただいているが、課題も多く抱えている。将来にわたっての持続

可能な運営形態の見直しや、魅力の向上を図ってきたい。

また、従業員の教育や、情報提供のあり方等、施設のさらなる充実が、急務であると認識しており、対策を検討している。また、町内へのいろいろな観光手段、案内手段を提供するということなどは、大変重要なことだと思ふ。

観光商工課とも連携を取りながら、検討していきたい。



観光の拠点「道の駅」